

キャラクターシート/李=閻斗

項目	内容	備考
性格など		
名前	李=閻斗 Lee=Keito	リ=けいと
性別	男	
年齢	32歳	童顔。若く見られる。
雰囲気	ちょっと意地悪そう。基本的にうるさい	うるさいし声大きい
性格	正義がなくとも意地汚く生きてやるという信条で生きているため、かなり卑怯で子扱い戦法・方法でも自分の利益になるように動く。 しかし、自分の中にはきちんと芯があり、そこからぶれることはない。閻斗自身はそれを「己の正義」と呼んでいる。 意外と優しい、と思わせることはあれど、実はそれが計算づくだということもよくある。	自分の過去が汚れていて、母親や父親の完璧主義に反発した結果、こんな性格になった。合言葉は「自分で自分をぶっ壊せ」
一人称	俺	たまに「俺様」や「この李閻斗様が」なんてのもあり
二人称・呼び方	お前/てめえ/この〇〇（侮蔑系） あんた/〇〇さん/〇〇ちゃん・くん（丁寧系） 呼び捨て（親しい相手） フルネーム（怒ったとき）	軽くイラついたときも無意識にフルネーム呼びしがち 自慢するときとかも自分のことフルネーム名乗りしがち
口調	乱暴、粗雑、汚い。悪口生産マシン。	ていうかうせえ
口調サンプル	「金を出せ、いいから金だァ!」「卑怯？ 知ったこっちゃねえよ。俺は俺の正義で動いてんだからな」 「め、眼鏡……眼鏡……?」「ほら、坊主。餡やるよ。だから——もう、泣くな」	だいたい大声。そしてゲス顔ゲス声。顔芸させたい。
基本設定（所属）	リベラリアで便利屋を営む男性。錬金術師。類稀なる才能と知識、頭脳を持っているが、金に汚く狡猾で、もったいないことこの上ない。一応「店主」という肩書だが、ルイズが店主になれないからやっているだけで、本人はあまり店主という立場のことをよく思っていない。	店主としての立場を良く思っていないのは自分に責任が降りかかるのが嫌なため
内面設定	完璧にやるよりも完全にやる、ということが信条。父母も自分も完璧を目指し過ぎて計画を頓挫させることが多かったため、「やり切る」ことに重点を置いている。完璧に出来なくても報酬減らして帳尻合わせりゃいいよな、みたいな。	スタートからエンドまでたどり着くことが大事。「完璧」ではなく「完全」というところがミソ。
家庭環境	父も母も王宮出身でプライドが高く完璧主義。そのため息子も完璧に育てようとして閻斗のことを縛り付ける。縛り付けられながらも錬金術という自由な技術に興味を持ち、それを生きがいにして生活してきた。王室側近の錬金術師として働くことになった閻斗のことを大変に喜んだが、汚職が発覚した時点で閻斗を軽蔑し、離別。閻斗は家を追い出され旅をすることになった。	李家はもともと王族の血が流れている。だが王と思想が離反し、李家の人間は自ら王室を離れることを選択した。その後もずっと「李家が正しく王族が間違っている」などとし、政党を立て、李家は王と点かず離れず、しかし穏やかでも陰険でもないという関係が続いている。
裏設定・過去	もともと別な国の官僚錬金術師として生活していたが、汚職がバレたため退職し、旅に出る。細々と商人をやりながら暮らしていたが、生きるのにも厳しくなってきた賞金稼ぎに手を出す。その感覚がクセになり、続けることに。そしてルイズと出会う。	最初の賞金首を狩るために作ったのが「アルキミスタ・アルマ」
趣味	錬金術の研究。特に金になりそうな学術的な研究材料を見つけたらとことん掘り下げて研究する。たまに周りに目が行かなくなりルイズに怒られる。	場合に寄っちゃ朝から晩までやるので腹が減ったルイズにぶんなぐられる。
特技	銃の扱い。長距離戦が得意。特製の「アルケミスタ・アルマ」を使って戦う。 攻撃だけでなく、状態異常や回復、罠の設置などにも使用できる。	
好きなもの	金、酒、武器、あと金。	金を「使うこと」よりも「貯めること」が好き
苦手なもの	完璧主義。プライドの高い奴。単純労働。	

キャラクターシート/ルイズ=クリスターニャ

項目	内容	備考
性格など		
名前	ルイズ=クリスターニャ Luiz=Churitanya	
性別	男	女に見間違えられるくらい美形だけど体型がガチガチの男
雰囲気	美麗。刃物っぽい。無感情。ぶっきらぼう。	
性格	過去に奴隷として生きてきたことで感情を殺すという処世術を身に着けてしまったために、基本的に思ったことを口にも顔にも出さない。長く付き合った人間には機微でわかるらしいが、数日レベルではわからない。ちなみに、閻斗には丸わかり。 ちなみに意外と優しいし情にもろい。いろんなものに流される。腹が減ると短気になる。	閻斗は同じ「完璧主義のために心を開かない」という経験を重ねてきたために、無表情な人間のことを察することができる。
一人称	おれ	
二人称・呼び方	お前/手前（デフォルト） 呼び捨て/さん（丁寧） 貴様（怒り）	「貴様！」という次元じゃなく「貴ッ……様アアアアアアアア！！！！」くらいぶちギレるときもある。
口調	ぶっきらぼうでストレート。ずばつと言う。たまにそれで傷つけてしまうことも。	
口調サンプル	「これ、喰えるのか？」「目の傷が痛む……雨か」「動くな。後ろに〈いる〉ぞ」「黙れ金の亡者。お前の金で飯を喰うんだ」	
基本設定（所属）	リベラリアにある閻斗の店で雇われている便利屋。過去は傭兵や暗殺者などをして暮らしてきた。閻斗の頭の良さをなんとなく（動物的に）理解しており「こいつといると美味しいものが喰える」と思いながら一緒にいる。閻斗のように研究や学術に励むことは出来ないが、力仕事や戦闘はお手の物。便利屋でも主に接近戦を任される。	閻斗との出会いは賞金稼ぎの荒くれが集まる酒場でのこと。絡まれてる閻斗と止めようとしたルイズが共闘したことがきっかけ。その後、同じ賞金稼ぎをしているということで意気投合。一緒にリベラリアに拠点を置くことにした。
内面設定	過去、奴隷商人に売られてしまいグロッシスタのあちこちで奴隷として働かされた。まだ戦いなれていない頃、雇われ主に「右眼の傷跡が気持ちが悪い」と言われタトゥーを入られた。	グロッシスタにはそもそも力仕事をしなくちゃならない職業がありすぎて奴隷はなんぼ居ても足りない。
家庭環境	よく覚えていない。何故なら物心つく前にグロッシスタに売られてきてしまったため。兄弟たちも一緒にいたはずなのだが、顔はおろか本当に兄弟がいたのかすら定かでない。 便利屋を始めて兄弟だという人間が訪れたこともあったが、自身と閻斗の身の危険を感じたため排除。 今はとにかく、便利屋が一番の居場所で閻斗が一番の家族である。	閻斗が一番の家族、というか弟分だと思っている。でも「弟っぽい」とか言ったら絶対にぶん殴られるので言わない。
裏設定・過去	家族というものに憧れをもっており、あたたかい食卓がその象徴だと考えている。そこから、食べることも好きになった（単純にお腹が減るといいうのももちろんある）。 閻斗の作る食事は美味しいしあたたかい。そして何より一緒に食べてくれることが嬉しい。実は一人で食べるときはろくなもん食べてなかったりする。	美味しいものが好きだけど、食べられれば何でもいから腹が膨れてないとな、という感じ。
趣味	猫を撫でること。野良猫についてって一緒に屋根の上で昼寝とかよくある。	リベラリアには猫たくさんいる。
特技	暗器・武器の扱い。相当な手練れ。訓練などは受けていないためほとんど自己流&力技だが、ハイパー強い。	武器を扱うセンスがもともと高く、奴隷の仕事の中に護衛の仕事もあったため身に着いた。
好きなもの	肉。酒。飯。炭水化物と肉があれば幸せ。	
苦手なもの	空腹と忙しい状態。	